

特集

新しい取り組み

エレクトロニクス先端融合研究センター

【エレクトロニクス先端融合研究センター センター長】 石田 誠 (いしだ まこと)

昨年の12月1日付けで、「エレクトロニクス先端融合研究センター」学内の研究センターとして発足させました。これは、本学の持つ強みである「エレクトロニクス基盤技術分野」(センサ・LSI、フォトニクスデバイス)とそれを用いて研究を展開する「先端的应用分野」(ライフサイエンス、医療、農業科学、環境、情報通信、ロボティクスなど)との新たな融合を目指した異分野融合研究拠点といえます。そのために、インテリジェントセンシングシ



ステムリサーチセンター、ナノフォトニクス情報テクノロジーリサーチセンター、先端農業・バイオリサーチセンターの各センターを発展的に統合し、その拠点とするものです。組織としては、これらの3センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(以下VBL)をエレクトロニクス先端融合研究機構に所属させ(他のセンターは技術創成機構に属しています)、近い将来に、研究所にすべく中期計画に示しています。

活動の拠点は、平成21年度補正予算で措置された、今年の9月末に完成する「エレクトロニクス先端融合研究棟」(図1・1500m²)と現在のVBL(LSI工場)の3階とを渡り廊下で結び、一体として活動するものです。本学が持つセンサ・LSI設計・試作・評価設備を有効に活用し展開していきます。

活動の中心となる研究スタッフは、4月からSandhu Adarsh教授を専任としてお招きし、また平成21年度から募集しているテニュア・トラック制度による異分野融合分野を推進する国内外の若手研究者現在(7名うち外国籍3名:バイオ・生命科学、脳科学、ロボティクス、マイクロチップ、フォトニクスデバイス)の方々が活動を始めています。研究棟完成後に3階のフロアを活動の拠点として、異分野の研究者が議論、研究を行える場としていきます。これらは、現在進行している本学のグローバルCOE「インテリジェントセンシングのフロンティア」の成果の発展形として展開し、本学が世界に見える異分野融合研究拠点として推進するものです。このためには、本学の多くの分野の先生や学生の皆さんの協力を必要としています。本センターから世界に発信すべき研究成果や産学連携活動成果が期待されます。